



今年「北」、私は「？」

「生き方・子育てをしてくれる漢字」と「和が大切」の巻

佐渡市立河崎小学校長 濱田晴明

今年の世相を表す漢字が「北」と決まりました。

ところで、漢字にはいろいろな意味があります。最近、本来の意味とは違いますが、いろいろな漢字の解釈があり、生きる上で参考になります。いくつかを紹介します。

【人生訓】

「命」(=「人」+「一」+「叩」) 「人は、一度は叩かれる」と書く。この世に生まれてきたからには、どんな人でも一度は試練を受ける。しかし、その試練は乗り越えられる。

「器」(=『一』+『人』+四方の『口』) 「一人」の人を取り囲むいろんな批判や評価を受けながら、自分という「器」(うつわ)が出来あがっていく。必要ないものは何一つない。

「辛い」と「幸せ」 「辛く」ても、あと一つだけ頑張れば「幸せ」になる。

「吐(は)く」と「叶(かな)う」 人は、口からプラスやマイナスのことを言う。「吐」という字は「口」と「+」「-」で成り立っている。マイナスのことを言わなくなると「-」が消え、夢が「叶(かな)う」などになる。

【子育て】

「親」(=『立つ』+『木』+『見る』) 子どもから目を離さぬよう“木”の上に“立”ち、眺めのいい場所から“見”守ってくれているのが親である。

「聞く」と「聴く」 「聞く」には、体の部位を示す漢字は1つで、「耳」しかない。「聴く」には、「耳」+「目」、そして「心」がある。相手の目を見て、心で聴くのである。(濱田は、聞くどころか、我が子が話している途中でさえぎって話してしまいます。「顔には耳は二つ、口は一つ。それはなぜか？ 自分がしゃべるより、人の話に耳を傾ける方を多くするということ。」と先輩から教えてもらったことがあります。反省・・・)



さて、私の今年を表す漢字は「和」です。統合一年目にあたり、子どもたちが学校生活を仲良く過ごすこと(「和」)を目指し、様々な教育活動を企画・運営をしてきた一年でした。例えば、仲良くなるために遊ぶことが大事と考え、60分間の長い昼の休み時間を週2回にしました。また、仲良くするためのゲームを月曜日の朝学習で実施しました。子どもたちは、勉強や遊び・けんかなどを通して、「和」の大切さを学んできています。

日本は昔から「和」を大切にしています。有名などころでは、聖徳太子が、「和を以て貴しとなす。」(何事をやるにも、みんなが仲良くやり、いさかいを起こさないのが良いということ)の言葉を残しました。最近、世界52カ国・地域で15歳の子どもの「他者と協力する力に着目した調査」(学習到達度調査PISA)が実施されました。その結果、協働問題解決能力が**世界第2位**でした。文部科学省は、「和」を重視する国民性が反映されたと分析しています。

今後も、子どもたちには、日本の国民性である「和」を大事にしてほしいと願っているところです。そのためには、子どもたちの手本となる大人が仲良くしなければならぬことは言うまでもありません。※私事ですが、争いや口論などは大嫌いで、これまでも「和」を重んじてきたつもりです。(しかしながらSMAPは解散。自称キムタクとしてはとても残念です。)



最後になりましたが、よいお年をお迎えくださいますようお願いいたします。